

2022年度第3四半期決算説明会  
主な質疑応答

●全社

Q: 在庫水準が高くなった要因は何か。また、期末に向けてどのような水準にしていくのか。

A: 第3四半期は部材供給制約と物流制約の改善が進み、販社在庫が増加した。一部の部材が入らないことで仕掛品が増えたことも要因。期末に向けては、各事業において需要を捉えた確実な販売を行うとともに、生産調整も実施し、前期末程度の棚卸資産回転日数にしていく。

Q: 第3四半期で認識した外部環境の変化は、来期まで影響を及ぼすのか。

A: 計画の策定はこれからであるが来期も増収増益を目指したい。世界経済、特に中国経済の減速影響は、商業・産業 IJP やロボットのような BtoB 分野で若干残ると考えている。そのような中でも、商業・産業 IJP やオフィス共有 IJP は、新商品の投入や供給制約の改善を見込んでおり、成長領域として着実に伸ばしていく。また、大容量インクタンクモデルの拡大にも引き続き取り組んでいく。

Q: 通期の当期利益を前回予想から下方修正した理由を教えてください。

A: 下期における円高 US ドル安推移に伴い、US ドル建の債権や預金、貸付金等の評価により生じる為替差損を織り込んだため。

●プリンティングソリューションズ

Q: 北米では SOHO・ホーム IJP のチャンネルの在庫抑制影響があるとのことだが、いつ頃まで続くのか。

A: 北米に関しては、セルスルーは比較的堅調であり、チャンネルの在庫抑制は一時的なものだと考えている。北米では、テレビなどの在庫が過多になっていることや、景気減速への警戒、資金繰りの関係から、チャンネルが在庫を抑制していると推測している。

Q: オフィス向け複合機新商品の引き合いはどうか。

A: 北米や西欧、日本などのディーラーからの反応は非常に良く、当初の見込みよりも引き合いが強い。発売時期が第4四半期のため当期の業績への貢献は限定的だが、来期以降の貢献に期待している。

●マニファクチャリング関連・ウェアラブル

Q: 第4四半期のセグメント利益は低い水準のようだが、その要因を教えてください。

A: ウェアラブル機器は、第4四半期はもともと売上収益の落ち込む時期であるため、高い収益性を期待しにくい。マニファクチャリングソリューションズは、市況の悪化に伴い売上収益の落ち込みを予想するが、将来成長に向けた費用投下を継続させる予定。マイクロデバイスは、極端な収益性の悪化を予想しているわけではないが、水晶デバイスでの市況の変化を考慮した。

以上